

令和 2 年度の委員会運営方法について

1 付議事件

オープンイノベーション等による企業支援や誘致促進、グローバル都市の実現、文化芸術創造都市や観光・MICEの推進等に関すること。

2 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

新たな都市活力推進特別委員会における調査・検討内容

【令和元年度】 人や企業が躍動する横浜の魅力醸成に関する取り組みについて

＜選定理由＞

本市が国内外を問わず多くの人を惹き付ける都市であり続けるためには、たゆまぬ魅力の醸成が必要となっている。都市の魅力となる要素はさまざまであるが、その都市で活躍する人や企業という財産は大切な要素とも言える。今後、本市の魅力をもっと醸成するためには、改めて、それら人や企業の魅力財産の深掘りを行うとともに、躍動するための新たな支援や国内外への魅力の発信等、取り組みが必要であると考えます。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行うこととした。

【平成30年度】 横浜における魅力ある都市活力の創造について

＜選定理由＞

技術革新や価値観の多様化が進む中で、横浜市が持続的な成長・発展を続け、存在感を発揮する都市であり続けるためには、臨海部や内陸部の新たな価値の創造など、人や企業を引きつける魅力的なまちであり続けることが重要になっている。

都市活力を推進するエンジンを考えるに当たっては、文化芸術や観光・MICEにとどまらず、オープンイノベーションの推進による革新的な研究開発支援や起業・創業の促進、企業誘致の推進、産業拠点の強化など、新たな市場分野を開拓し、雇用やイノベーションを生み出す取り組みが必要と考えます。

当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行うこととした。

観光・創造都市・国際戦略特別委員会における調査・研究内容

【平成29年度】 横浜の魅力をつなぐ・広げる取り組みについて

＜選定理由＞

横浜市はラグビーワールドカップ2019TM及び東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、国内外からの来浜客をもてなし、横浜の魅力を国内外に発信していく取り組みがさらに重要になっている。そのため、この好機を捉え、横浜が持つ多くの魅力をつなぐことにより、さらに大きな魅力を生み出し、それを効果的にアピールし、横浜の魅力を大きく広げていくことが必要である。そのことにより、さらに多くのお客様に横浜が選ばれ、訪れた方々に御満足いただくことが重要であり、さらには五輪終了後にも何度でも横浜に足を運びたい都市となるよう、横浜の魅力を持続的なものとする取り組みが必要と考えます。当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。

【平成28年度】 選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進について

＜選定理由＞

横浜市は、中期4か年計画の戦略3「『魅力と活力あふれる都市の再生』戦略」に基づいて、市民・企業・行政が一体となり、世界中の人々や企業を引きつけ、都市の活力とにぎわいを創出するまちづくりを推進している。

これまで本特別委員会では、観光・MICEの推進や文化・芸術等の創造都市戦略の検証などをテーマに委員会活動を行ってきたが、今までの議論は継続しつつ、本委員会の付議事件のうちまだテーマとして取り上げられていない国際コンテナ戦略港湾の推進や国際戦略総合特区の推進についても議論し、国際港都横浜が選ばれるためにどうあるべきかを複合的な観点から検証していく必要がある。

よって本特別委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。

【平成27年度】 東京オリンピック等を見据えた横浜らしい観光・MICEの推進について

＜選定理由＞

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、今後、海外からの観光客数が大幅にふえることが予想される。横浜がMICE分野において、韓国やシンガポール等の海外都市との国際競争に打ち勝っていくためには、五輪を好機と捉え、横浜に多くのお客様をお迎えし、オリンピック終了後も選ばれる都市となるよう環境を整備していくことが必要である。

そのためには、大型コンベンションなどを受け入れる施設の整備や多言語に対応できる案内手法の導入、横浜に潜在する横浜らしさの発掘とその活用など多岐にわたる施策の展開が求められる。

当委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行っていくこととした。